

平成28(2016)年度 事業活動報告・活動計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

認定特定非営利活動法人 全国盲導犬施設連合会

事業活動結果



「ともに生きる、ともに歩む」を共通の理念に、全国の盲導犬訓練法人施設の連合体として、視覚障害者が盲導犬を使用し自立と社会参加を図れるよう、広く盲導犬の普及啓発、相談、加盟施設の実施する盲導犬無償貸与への助成を実施した。

平成28年4月28日、法の改正に伴い国税庁長官の認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)から東京都知事の認定NPO法人格を取得した。

業務の効率化を図るため、支援者情報、その他各種業務に関する情報を一元管理する新しい情報管理システムを導入した。

1. 普及啓発事業

- 1) 広報誌デュエット25号18万部、ポスター7千枚、補助犬同伴可ステッカーを作成配布した。
- 2) 視覚障害者向け盲導犬情報(点字版、墨字版、CD版)を2回(9月17号)、(3月18号)発行し、盲導犬ユーザー、点字図書館、都道府県視覚障害者担当部局などに配布した。
- 3) 8月の東京メトロ青山一丁目駅ホームからの盲導犬ユーザー転落事故を契機として、盲導犬普及広報のあり方について再検討を行い、以前にも増して、ユーザーへの声掛けを判り易く具体的にお願いするため、新年度のデュエット、ポスターに反映させた。
- 4) 盲導犬ユーザーの受入促進に向け、都道府県の補助犬法担当窓口、補助犬同伴可ステッカー申込者へ盲導犬ハンドブックを配布した。
- 5) 啓発イベント(盲導犬ふれあい教室等)を全国で合計41回実施した。
- 6) パトラッシュ基金では、募金箱設置企業等でのイベント実施とともに、パトラッシュ基金リーフレットを14,000部増刷した。
- 7) 寄附・募金箱設置協力企業へ、良い機会を捉えて感謝状を贈呈した。



2. 相談室事業

- 1) 盲導犬貸与希望、入店拒否、ユーザー相談、事業者・市民相談など116件を受付対応し、育成訓練施設に照会して、助言、調査回答等により各種問い合わせへの解決を図った。
- 2) 盲導犬ユーザーへのクレーム通報について、苦情解決対応フローチャートに沿って各施設と連携して是正等を通報者に回答した他、盲導犬に対する理解を求めた。

3. 資格認定事業

- 1) 盲導犬訓練士2名、盲導犬歩行指導員3名の計5名を、資格認定審査要綱に則り、以下のとおり知識・技能を確認し、資格を認定した。
 - ・必要知識の学科習得確認テストを各施設で8月と1月に実施
 - ・技能確認の実技審査会を、2月の盲導犬育成ジャパンセミナー会場にて開催
 - ・盲導犬歩行指導員受験者面接 2月に実施
 - ・盲導犬歩行指導員等資格認定委員会 4月、12月、3月の3回開催
 - ・理事会に本年度資格認定者付議 3月
- その他、盲導犬歩行指導員受験者1名について、実技審査を追試とした。

4. 研修事業

資格認定審査受験者を対象にしたスクーリングについては、第2回盲導犬育成ジャパンセミナープログラムに組み込み、歩行指導員受験者は研究発表を、訓練士受験者はセミナー全期間参加により研修習得とした。

5. 使用者団体との相互協力事業

全日本盲導犬使用者の会(全犬使会)新役員と、加盟訓練施設とともに、盲導犬の育成、連合会への要望を聞き、意見交換会を行った。

6. 情報交換及びネットワーク構築事業

- 1) 各訓練施設の責任者全員による運営委員会を4回開催し、盲導犬の育成訓練と普及、事業に係る諸課題について協議した。
- 2) 盲導犬育成ジャパンセミナー第2回目を、2月8日~9日の2日間、昨年と同じ(公財)日本盲導犬協会神奈川訓練センターを会場に開催した。
- 3) 平成27年度(2015)盲導犬訓練施設年次報告書「(社福)日本盲人社会福祉施設協議会編」の印刷と関係部署へ発送を行った。
※平成29年3月末日現在、全国の盲導犬実働数は950頭。国内の指定法人全11団体が平成28年度中に育成した盲導犬の頭数は134頭。内訳は、新しく盲導犬ユーザーのパートナーとなった盲導犬は46頭、2頭目以降の代替犬は88頭。
- 4) ANAによる盲導犬割引輸送協力利用の実績は31回であった。
- 5) 日本自動車販売協会連合会(自販連)盲導犬公益信託にかかる盲導犬無償貸与について、本年度は3頭を推薦し、それぞれ助成を受けた。また、自販連の盲導犬育成基金PRポスターの制作協力を行なった。
- 6) 盲導犬ユーザーの駅ホームから転落しなくなるという痛ましい事故を受け、
 - ① 8月25日、臨時の運営委員会を開催し、事実究明と再発防止に向けた意見交換会を行い、盲導犬ユーザーに、外出時の「ヒヤリハット」経験についてアンケートの実施と、本件事故について(公財)北海道盲導犬協会と共同声明「8月31日付」の発表を行なった。
 - ② 本件について、国土交通省鉄道サービス部、(社福)日本盲人会連合の各種会議に出席し、再発防止についての検討と協議を行った。

- ③ 駅ホームでの盲導犬候補犬の訓練について、国土交通省が纏めた【駅ホームにおける安全性向上のための検討会・中間のとりまとめ】に「盲導犬の育成及び盲導犬貸与希望者等の駅における訓練への協力」が盛り込まれ、簡易な手続きでの駅ホームの訓練実現に一定の前進をみた。
- ④ 盲導犬ユーザーアンケート「ヒヤリハット第一次調査結果」を11月にプレスリリースし、3月には連合会HPに全体の調査結果を掲載した。
- 7) 5月20日、身体障害者補助犬を推進する議員の会による【ほじょ犬の日】啓発シンポジウムに出席し、加盟施設へ情報提供を行った。

7. 財政基盤支援事業

- 1) 盲導犬の無償貸与と促進を図るため、加盟施設が実施する盲導犬無償貸与にかかる費用の一部助成(1頭200万円)を行い、希望する視覚障害者に連合会助成として盲導犬23頭分の無償貸与を行った。
- 2) 遺贈寄付を原資とする「特定資産積立金」取り崩しによる盲導犬無償貸与については、本年度の取り崩しはなかった。

8. 調査研究事業

良質な仔犬(盲導犬候補犬)確保に向けた繁殖方法と体制づくりについて、引き続きAGBNへ盲導犬改良システムの構築の業務委託をおこなった。

9. 国際交流事業

5月にクロアチア共和国で開催した国際盲導犬連盟(IGDF)のセミナーへ連合会として職員1名を派遣し、更に各施設参加職員向けに、セミナー会場での同時通訳の費用補助を行った。また、参加者からのレポートをまとめ、報告書を作成した。

10. 顕彰事業

本年度は行わなかった。

活動計算書

(単位:円)

1) 収益の部		決算額
大科目	中科目	
受取会費	正会員受取会費	800,000
	計	800,000
受取寄附金	個人寄附金	13,214,897
	団体・法人寄附金	6,879,522
	特別寄附金	15,698,821
	募金	77,217,198
	その他募金	183,239
	計	113,193,677
その他収益	受取利息	40,160
	ステッカー収入	61,900
	指定正味財産振替額	0
	計	102,060
経常収益計		114,095,737
2) 費用の部		決算額
大科目	中科目	
事業費	人件費	22,337,328
	普及啓発事業費	12,025,066
	相談室事業費	885,229
	資格認定事業費	1,002,678
	研修事業費	187,510
	使用者団体相互協力事業費	66,663
	情報交換・ネットワーク事業費	3,842,219
	財政基盤支援事業費	46,010,334
	調査研究事業費	3,183,089
	国際交流事業費	1,939,188
	顕彰事業費	0
	計	91,479,304
管理費	人件費	4,420,126
	その他管理費	4,960,484
	計	9,380,610
経常費用計		100,859,914
当期経常増減額		13,235,823